

神戸山王まじりの紹介

日吉神社は平安時代のはじめ、最澄(伝教大師)が安八太夫安次の懇請に応じ、近江ノ国・坂本の日吉大社の御霊を移し、お祀りしたことに始まると伝えられています。

その後、平野荘(庄)(神戸町一円)の鎮守神として長い歴史の興亡のなかに郷土の人々のあつい信仰にささえられた日吉の祭りは、「神戸山王まつり」(県重要無形民俗文化財)と言われ例年5月4日に行われてきました。「神戸山王まつり」には、伝統に生きる素朴な民衆による神人合一の神輿の「渡御」が3回行われています。

「朝渡御」は5月4日午前0時、神社から若い衆に担がれた「神輿」が幾千本の松明の明かりに映えながら、「お旅所」に奉安される朝渡り、「火まつり」です。

また午後0時、お旅所から左折して横町・上新町・下新町から鍛冶屋町の通りに出て本町を通りお旅所に渡御する「昼渡御」、昼渡りです。しかし、現在は行われていません。

午後5時「王飯」の供奉、「力紙」の神事が行われて「神輿」がお旅所から神社へ渡御する「還御」です。



日吉牛尾宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、1番先頭に渡御する日吉牛尾宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、本町の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	八角形
■ 中心の胴体	高さ：90 cm
■ 台脚	高さ：21 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：86 cm 長さ：3.90m
■ 屋根	高さ：40 cm 裾の幅：52 cm
■ 頂の擬宝珠	高さ：25 cm 直径：20 cm
■ 座板	高さ：21 cm 幅：1.43m

八方の扉(あかね)の鏡は直径19 cmのもの8個。屋根に飾ってある金物は16花卉の菊花の紋章8個。胴体の柱の金物は上り竜と下り竜の浮彫金物、座板の打付金物は波と兎。棒鼻(前の丁口)の金物は金唐草模様中央に16花卉の菊花の浮彫。鈴は八角型青銅の駅鈴。鈴繩は紅白縮緬の2本撚りです。



日吉樹下宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、2番目に渡御する日吉樹下宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、横町・西保・南方の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：95 cm 幅：91 cm
■ 台脚	高さ：18 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：93 cm 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：50 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の鳳凰	高さ：30 cm 首から尾：48 cm
■ 座板	高さ：21 cm 幅：1.48m

四方の扉(あかね)の鏡は直径30 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は正面が七曜星3個。左右および後部は2個ずつ。胴体の柱の金物は前部2本に岩上にたむれる獅子と笹の葉、および溪谷の飛沫模様の青銅彫刻金物。後部の柱は牡丹に蝶が右側、岩の上を蝶が飛んでいるのが左側。座板の打付金物は正面、左右共に波に千鳥の透彫りです。棒鼻(前の丁口)の金物は波に千鳥の透彫り。鈴は丸型。鈴繩は紅白2本の撚り合わせです。



日吉大宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、3番目に渡御する日吉大宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、上新町・安次・丈六道・田(神戸町)と本庄(大野町)の5ヶ町によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：98 cm 幅：98 cm
■ 台脚	高さ：24 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：70 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の鳳凰	高さ：30 cm 首から尾：30 cm
■ 座板	高さ：21 cm 幅：1.48m

四方の扉(あかね)の鏡は直径30 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は四方共巻雲と竜の透彫り金物、胴体の柱の金物は前部2本は左右共鉄拐山人の仙人清遊の唐金彫刻、座板の打付金物は波に飛竜の模様を浮かした彫刻金物、棒鼻(前の丁口)の金物は獅子頭に太鼓を持った舞姿の透彫り。鈴は丸型、鈴繩は緋縮緬の巻繩です。



日吉二宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、4番目に渡御する日吉二宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、三津屋・末守・北一色の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：98 cm 幅：98 cm
■ 台脚	高さ：23 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：70 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の鳳凰	高さ：35 cm 首から尾：35 cm
■ 座板	高さ：20 cm 幅：1.40m

四方の扉(あかね)の鏡は直径30 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は五七の桐の金物。胴体の柱の金物は前部左右2本に神武天皇東征の像が、また後の左右2本には南朝の忠臣菊地一族の旗上げの像が、何れも金・銀・銅・錫等で浮彫りにされています。座板の打付金物は波に千鳥の浮彫りで銅鍍金が施してあります。棒鼻(前の丁口)の金物は唐草模様の金物が嵌めてあります。鈴は丸型。鈴繩は緋縮緬の巻撚り、鈴繩掛の金物は唐獅子の青銅作りです。



日吉宇佐宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、5番目に渡御する日吉宇佐宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、宮町・井田の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：98 cm 幅：98 cm
■ 台脚	高さ：23 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：70 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の鳳凰	高さ：30 cm 首から尾：40 cm
■ 座板	高さ：18 cm 幅：1.40m

四方の扉(あかね)の鏡は直径24 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は葵の紋。胴体の柱の金物はそれぞれ上部に巻雲模様、下部に波の模様を金で彫刻してあります。座板の打付金物は波に千鳥の浮彫りで、銀と金鍍金が施してあります。棒鼻(前の丁口)の金物は右が竜、左が虎の浮彫金物が嵌入してあります。鈴は丸型。鈴繩は緋縮緬の巻撚りです。



日吉客人宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、6番目に渡御する日吉客人宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、下新町・福井・下宮・更屋敷の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：97 cm 幅：98 cm
■ 台脚	高さ：18 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：1.00m 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：70 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の鳳凰	高さ：33 cm 首から尾：35 cm
■ 座板	高さ：22 cm 幅：1.40m

四方の扉(あかね)の鏡は直径28 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は前部に憂曇華の花3個。左右および後部は2個ずつ。胴体の柱の金物は前部右側は養老の孝子源丞内が滝の水を汲んでいる図。左側は楠公桜井の子別れの図。後部は左右共漢詩の讀文の彫刻。座板の打付金物は波に千鳥の鍍金金物。棒鼻(前の丁口)の金物は左右共憂曇華の花の彫刻が嵌入してあります。鈴は丸型。鈴繩は緋縮緬の巻撚りです。



日吉三宮神輿

日吉神社祭典行事に担がれ、最後の7番目に渡御する日吉三宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、鍛冶屋町・昭和町・川西の氏子によって奉昇されています。

■ 本体	四角形
■ 中心の胴体	高さ：98 cm 幅：98 cm
■ 台脚	高さ：20 cm
■ 担ぎ棒	担ぎ棒間：95 cm 長さ：4.00m
■ 屋根	高さ：70 cm 裾の幅：1.40m
■ 頂の擬宝珠	高さ：23 cm 直径：25 cm
■ 座板	高さ：25 cm 幅：1.40m

この神輿と牛尾宮の神輿だけが擬宝珠がついています。座板の打付金物は波に千鳥の浮彫金物で、金、銀の鍍金がしてあります。四方の扉(あかね)の鏡は直径30 cmのもの4個。屋根に飾ってある金物は、鳳凰が羽根を広げている模様が屋根の四方に打ってあります。棒鼻(前の丁口)の金物は12星の中心に福槌の浮彫金物が嵌入してあります。鈴は丸型。鈴繩は緋縮緬の巻撚りです。鈴の金物は前部右が麒麟、左が亀、後部の右が上り竜、左が鳳凰の金物が打ち付けてあります。

